今週の為替相場見通し（2017年11月6日）

総括表		先週の値動き				今週の予想レンジ		
		注	レンジ			終値		
米ドル	（円）		112.96	～	114.43	114.07	113.00 ～ 115.00	
ユーロ	（ドル）		1.1595	～	1.1691	1.1606	1.1600 ～ 1.1750	
（1ユーロ=）	（円）		131.46	～	133.13	132.41	131.50 ～ 133.50	
英ポンド	（ドル）		1.3040	～	1.3321	1.3076	1.2900 ～ 1.3150	
（1英ポンド=）	（円）	*	148.67	～	151.94	149.17	147.00 ～ 151.00	
豪ドル	（ドル）		0.7639	～	0.7730	0.7651	0.7500 ～ 0.7850	
（1豪ドル=）	（円）	*	86.69	～	88.10	87.27	86.50 ～ 88.50	

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　西谷 鷹

（1）今週の予想レンジ：　113.00 ～ 115.00 円

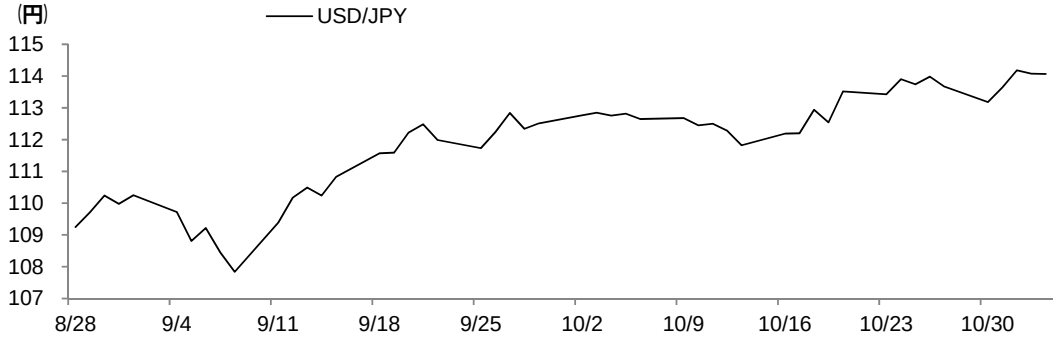
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は底堅く推移。週初10月30日に113円台後半でオープンしたドル/円は、実需によるドル買いフローを背景に堅調な値動き。しかし、ロシア疑惑でトランプ陣営のマナフォード元選対会長ほか2名が起訴されたことを受けて、米株が軟調に推移すると113円台前半まで値を下げた。31日は前日のドル売りの流れを引き継ぎ、週安値となる112.96円まで続落。日銀の金融政策決定会合の結果が発表され、現状の金融政策が維持されるとともに同時に公表された展望レポートで物価見通しが下方修正されたが、ドル/円の反応は限定的となり113円台前半での小動きが継続。その後発表された米経済指標が良好な結果となる中、月末絡みのドル買いフローも相俟って113円台後半まで続伸した。11月1日は日経平均株価や欧州株が上昇する中、じり高となり114円を上回った。さらに米10月ADP雇用統計が予想を上回ると114.28円まで上伸。米10月ISM製造業景気指数が冴えない結果となり一時114円台を割り込んだが、FOMCにおいて景気認識に関する文言が上方修正されると114円台前半まで反発した。2日は下院より税制改革法案の詳細が発表され、ほぼ事前予想通りの内容に一時113円台半ばまで急落。しかし、徐々に買い戻され再び114円台を回復した後、引けにかけて次期FRB議長にパウエル理事が指名されるも、織り込み済みであったことから反応は限定的となった。3日は米10月雇用統計が発表され、前月比+26.1万人と前月（同+1.8万人）から大幅に改善したものの、ハリケーンの影響の反動との見方から初動は売りで反応。一時113.60円近辺まで下落したが、すぐに114円台を回復した。その後、米10月ISM非製造業景況指数が2005年以来の強い数字となると、ドル/円は週高値となる114.43円まで上昇、114.07円で越週した。

今週のドル/円相場は底堅い展開を予想する。FOMC、下院税制改革法案の発表、次期FRB議長の指名、米雇用統計と材料の出尽くし感から方向感に乏しい展開が想定される。しかし、先週の値動きを見る限り113円台半ば近辺は底堅く、下値の堅さを確認した上で、上向きのバイアスが強い状況は不変。上値目途としてはここもと何度も止められている114.50円近辺がターゲットとして意識されるところ（5月高値114.38円、7月高値114.49円、10月高値114.45円、先週高値114.43円）。じりじりと売りをこなす形で、上抜けを試す展開を基本線と考えている。但し、上値トライに失敗し、株の下落などセンチメント悪化の雰囲気が漂った場合は、一旦調整売りが入ることも想定した上で臨む必要があるだろう。

（3）先週までの相場の推移

先週（10/30～11/3）の値動き：　安値 112.96 円　高値 114.43 円　終値 114.07 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　坂本 真史

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1600 ～ 1.1750　131.50 ～ 133.50 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

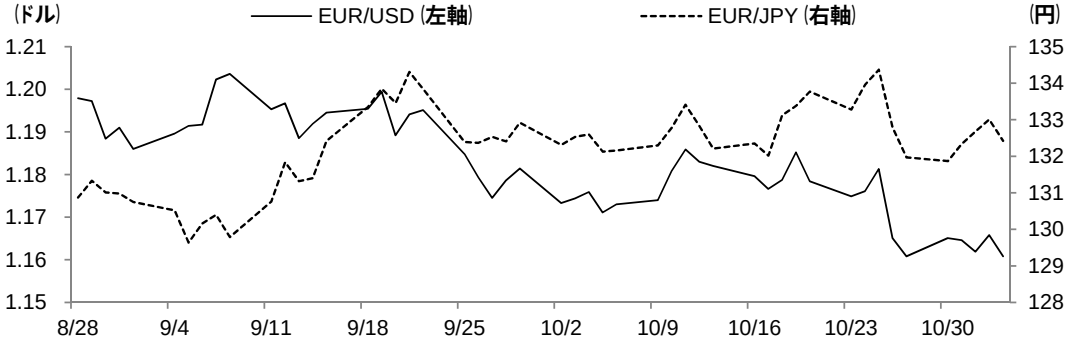
先週のユーロ相場はレンジ推移となった。まず対ドルでは、週初30日に1.16ちょうど近辺でオープン。週安値1.1595をつける場面があったものの、スペインのカタルーニャ州を巡ってスペイン政府が同州首相等を解任した他、世論調査で独立支持派の劣勢が伝わり、同州の独立が困難との見方が強まる中、ユーロ買い戻しの展開。米トランプ陣営からロシア疑惑問題で初の逮捕者が出たことによるドル売りもユーロをサポートし、1.16台半ばまで上昇した。翌31日は特段の材料がなく1.16台半ばでレンジ推移。週央11月1日、米FOMCでは市場の予想通り政策金利は据え置かれたものの、同時に発表された米経済情勢についての認識が上方修正されたことからドル買い優勢となり、1.16台前半まで下落。翌2日、米下院が発表した税制改革案を巡り、住宅ローンの税控除縮減が謳われたことで住宅関連株の下落を招き、米金利も低下する中、1.1687まで上昇。一旦は1.16台半ばまで戻すも、翌3日に発表された米10月雇用統計で非農業部門雇用者数や平均時給が予想を下回っていたことから、週高値1.1691まで再度上昇した。但し、同雇用統計が米12月利上げを妨げるほどのものではないとの見方が強まると、1.16ちょうど近辺まで下落して越週した。次に対円では、週初30日に132円ちょうど近辺でオープン。トランプ陣営から逮捕者が出たことでドル/円が下落したことに連れ、週安値131.46円をつけた後は131円台半ばから132円台半ばで推移。2日に米税制改革法案の発表を受けてドル売りが強まった局面ではユーロ/ドルの上昇に牽引される形で週高値133.13円をつける場面も見られたが一時的であった。結局133円台は維持できず132円台半ばで越週した。

今週のユーロ相場は底堅い展開を予想する。10月1日に実施されたカタルーニャ州での住民投票で独立派が多数を占める結果が示されて以降、スペインの政治不安がユーロ相場の上値を押さえていた。しかし、スペイン中央政府が前閣僚を収監したこと、12月21日に実施される同州議会選挙について現地紙の世論調査では独立反対派の政党支持率が独立支持派の政党支持率を上回る結果を示していること、スペイン司法当局がカタルーニャ州前首相のプチデモン氏にEU共通の「欧州逮捕状」を出していることを踏まえれば、スペインの政治不安が取り除かれる可能性が高まってきたと考える。欧州の経済情勢は、先週発表されたユーロ圏10月消費者物価指数（HICP）こそ予想を小幅に下回ったものの、ユーロ圏7～9月期GDPは予想を上回るなど、過度に悲観的になる情勢とは捉えにくい。また米国に目を転じれば、先週税制改革案が発表されたものの議会審議は始まったばかりで今週中に妥結されるものではなく、週内の相場への影響は限られよう。一方で次期FRB議長に指名されたパウエルFRB理事は一部ではハト派的と目されることもあり、ドルが買われ難い展開となることからユーロがサポートされそうだ。以上を踏まえ、今週のユーロは大きく上値を伸ばすというよりは、売られ難いという文脈で小じっかりと堅調な展開になるものと予想。その他の主なイベントとしては6日(月)にユーロ圏財務相会合、7日(火)にEU経済･財務相理事会（ECOFIN）、ユーロ圏9月小売売上高の発表が予定されている。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/30～11/3）の値動き：

（対ドル）	安値 1.1595	高値 1.1691	終値 1.1606
（対円）	安値 131.46	高値 133.13	終値 132.41



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　芹澤 隆博

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2900 ～ 1.3150　147.00 ～ 151.00 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

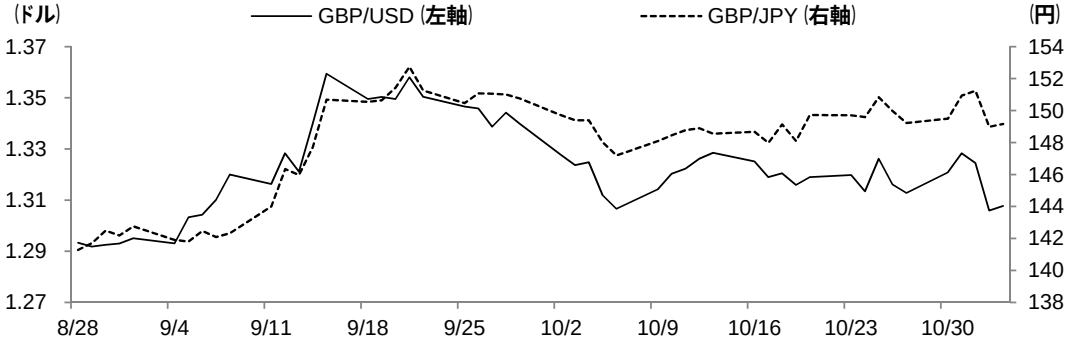
先週の英ポンド相場は、BOEの金融政策決定会合がややハト派な結果となったことを受けて全面安の展開となった。週明けはトランプ政権ロシアゲート疑惑再燃や、米超長期国債発行期待後退などからドルが売られる流れにポンド/ドルが上昇。火曜日にはバルニエEU主席交渉官より英EU離脱交渉を加速させる、との発言が好感されポンド買いが加速し、ポンド/ドルは今週の高値の1.3321をつけた。そして迎えた水曜日のBOEの金融政策決定会合では約10年ぶりとなる25ベーシスの利上げを実施。票数も7対2での決定とここまではほぼ市場予想通りであったものの、市場の織込み以上に利上げする必要との文言を削除したことや、さらなる利上げはゆっくりで限定的と強調されたことがハト派と受け止められポンドは全面安の展開となり、ポンド/ドルは1.3050割れまで下落。ユーロ/ポンドは0.8930超えまで上昇した。金曜日に発表された英10月サービス業PMI、英10月コンポジットPMIは予想対比良好な数字となったことや、週末を控えたポジションクローズや、指標前の利食いと思しきポンド買いを受けてポンド/ドルは一時1.31台を回復。しかしその後発表された米10月雇用統計は予想対比弱かったものの、前月が上方修正されたことや、米10月ISM非製造業景況指数が2005年以来の強い数字となったことを受けて各通貨がドル買いの流れとなり、ポンド/ドルは再び1.30台へと下落しての越週となった。

今週の英ポンド相場は緩やかな下落を予想。注目は9日（木）から2日間の日程で開催される予定の英EU離脱交渉であろう。デービスEU離脱担当相が袋小路に陥った離脱交渉を打開するため、離脱に伴う清算金で妥協の用意があることを示唆しているものの、今までの離脱交渉を振り返ってみても具体的な進展が示されたことはほとんどなく、ヘッドラインリスクには注意が必要と思われる。また、今回のBOEにおいても前回の会合同様にEU離脱交渉がスムーズに行われることを前提としていることが強調されており、記者会見でカーニー総裁がその首尾次第によって金融政策委員会は新たな見通しを検証し、適切に政策を調整しなければならなくなる、と発言していることから当面の間は不安定な状況が継続するだろう。ただ、通貨オプション市場におけるポンド/ドルの1週間のインプライドボラティリティは6.4%とここ2年の安値圏まで下落していることからトレンドを変換させるような材料が出るとはあまり期待されておらず、英ポンド相場は緩やかな動きになると思われる。英経済指標は11月7日（火）の英10月ハリファックス住宅価格、11月10日（金）の英9月鉱工業生産、英9月貿易収支が予定されているが注目が高いとは言えず、市場への影響は限定的と思われる。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/30～11/3）の値動き：

（対ドル）	安値 1.3040	高値 1.3321	終値 1.3076
（対円）	安値 148.67	高値 151.94	終値 149.17



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　岡本 明生

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7500 ～ 0.7850　86.50 ～ 88.50 **円**

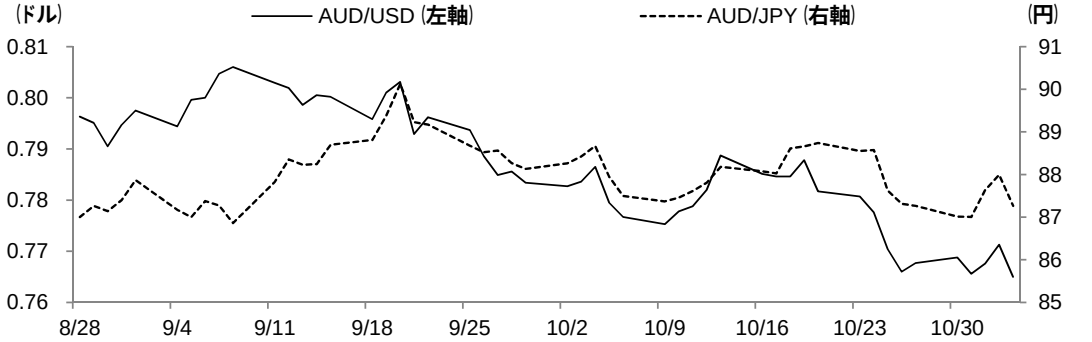
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場はレンジでの推移となった。週初10月30日の豪ドルは0.76後半でオープン。日中は目立ったニュースに欠け、横ばい推移。海外市場に入り、トランプ陣営の元選対会長ら起訴報道やトランプ大統領がパウエルFRB理事を次期FRB議長に指名する公算が大きいとの報道を受けて、ドル売り・米債利回り低下より、豪ドルは0.7691まで上昇した。豪ドル/円はドル/円の下落を受けて、87円前半から86円後半に下落。31日の豪ドルは0.76後半でスタートするも、目立ったニュース無い中、豪ドルはじりじりと0.76半ばに下落した。海外市場に入っても、FOMCを前に様子見ムードが強く、豪ドルは0.76半ばで揉み合い推移する中、豪ドル/円は週安値86.69円をつける場面もあった。11月1日の豪ドルは0.76半ばでスタート。日中は堅調なアジア・オセアニア株価を受けて、リスク通貨の豪ドルも0.76後半に上昇。海外市場に入り、良好な米10月雇用指標が発表されるも、豪ドルへの影響は限定的。FOMCもサプライズ無く、無難に通過し、2日朝の豪ドルは0.77台前半まで上昇するも、0.76台後半へじりじりと値を下げる展開。海外市場に公表された注目の米減税改革案は、事前に報道されていた内容とほぼ同様だったことから米ドル売りの流れとなり、再び0.77台前半まで上昇、合わせて豪ドル/円も週高値88.10円まで上昇となった。3日の豪ドルは、市場予想比弱い結果となった豪9月小売売上高を受けて0.76台後半へ下落。海外市場に入り、米10月雇用統計が一部弱い結果だったため米ドル売りで直後は反応も、その後は総じて堅調な結果であったことから反転して豪ドルは下落。週安値の0.7639まで値を下げ、結局豪ドルは0.7651、豪ドル/円は87.27円で越週した。

今週の豪ドル相場は徐々に下値を切り上げる展開を予想する。今週は7日（火）に豪州準備銀行（RBA)の金融政策決定会合を控えているが、足許の弱い消費者物価指数（CPI）や個人消費などのファンダメンタルズを受けて金融政策は現状維持が予想されている。しかし、与党ジョイス副首相の二重国籍問題による議員辞職も豪ドルの重石となっているが、ニュージーランド国籍の放棄により12月2日（土）の選挙で再度議席を獲得する見通しとなっており、一時的に議席数を75（過半数150）に減らした与党は再び過半数を占める見通しで、政権への不安はひとまず落ち着くだろう。また、市場の注目を集めていた米税制改革案の詳細が公表されたことや、次期FRB議長にパウエル氏が指名されたことで米金利の先高感がやや後退した点を勘案すると、RBAが利上げを見送ったとしても豪ドルには買い戻しが入りやすい状況か。200日移動平均線付近で揉み合いとなっているが、再び0.77台へ上昇していくと予想する。今週の主な経済指標は、7日（火）に豪10月外貨準備高、9日（木）に豪9月住宅ローン（前月比）、10日（金）にRBA議事要旨が発表される。また、関係が深い中国では、7日（火）に中10月外貨準備高、8日（水）に中10月貿易収支、9日（木）に中10月CPI/PPIが発表される。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/30～11/3）の値動き：　（対ドル）安値 0.7639　高値 0.7730　終値 0.7651
（対円）安値 86.69　高値 88.10　終値 87.27



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。